

◇ 学校運営方針の説明 (橘 正敏 校長)

○資料の最初に載せた写真(校内駅伝大会と人権の花植え)

校内駅伝大会、最後の学級がゴールする際に迎えるゴールテープは、先にゴールした全学級の襷(たすき)をつないだもの。三川中の伝統であり、一つの行事でもみんなで終える仲の良さを示している。人権の花植えで擁護委員の方から説明をいただきながら植えた花が成長もよく咲きほこっている。

○今年度の生徒数は1年生61名、2年生71名、3年生72名の計204名でスタートしている(昨年度より若干増加)。普通学級7、特別支援学級4の11学級。

○職員は、県費負担21名、町から様々な支援をいただいて合計36名の職員となっている。

○育てたい生徒については変えていない。

1. 自他のいのちを大切にする生徒 2. 夢や希望の実現に向け、努力する生徒 3. 知恵を育み、たくましく生き抜く生徒 4. 人とかかわりと助け合いを大切にしながら学び続けていく生徒

○「三川中10のコンピテンシー」(育てたい資質・能力)について、2月の協議会で意見をいただいた。その上で改めて3年間をかけ育てることに挑戦していきたい。

1. 知識・技能 2. 情報収集能力 3. 分析力 4. 判断力 5. 表現力 6. 協働する力 7. 自己肯定感 8. 理論的思考力 9. 批判的思考力 10. セルフマネジメント力(自己管理能力)

○創りたい学校として「学びと成長、そして笑顔のあふれる学校」学校目標として「心豊かで賢くたくましい生徒の育成」～自律・共生・貢献～。今年度より学校だよりに記載し周知を図っている。

○重点としては4つぶれないで考えている。1.「魅力ある学校づくり」を推進する。2. 生徒にとって学びのある授業を創る。3.「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進する。4. 高い同僚性をもとに、学び合い、研鑽し合う教職員集団をめざす。昨年度と1と4の順番が異なっている。生徒を教職員が「支える」というイメージを強く考え変えている。

○重点の1について、1.「居場所づくり」(教師主導)と「絆づくり」(生徒主体)を中心に取り組む。2. 学びのユニバーサルデザインを推進する。3. 教育活動における生徒の主体的な取り組みを支援する。4. 生徒の自尊感情と自己有用感を高める。特に、今年度、2の学びのユニバーサルデザインを推進することを新たに加え子どもたちの目線にたって考えている。学びを支える教室環境はどうあるべきか。学習内容として、基礎的内容を重視する生徒への対応と同時に、発展的内容を求める生徒への対応を考慮した授業準備を行うなど。

「ユニバーサルデザイン」とは

すべての児童生徒が安心して学べる教育環境を整備すること。「児童生徒が安心して学べる教育環境」とは、安心できる人間関係や環境の中で、分かりやすい授業が展開されているということです。この「教育環境」を整備することにより、子どもたちは基礎的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことができます。「学びのUD化」を進めることは、確かな学力、豊かな心など「生きる力」をはじめ、人権を尊重する態度などをはぐくむとともに、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えることにつながります

○重点2について、1. 生徒個々の思いや価値観を表出できる学級風土を醸成する。2. 協働的な学びを通して、新たな気づきや理解を深める授業づくりを推進する。3. 総合的な学習の時間を活用して、社会で生き抜く力を育成する。4. ICT機器の活用を図り、生徒の力を最大限に引き出す学びを実現する。総合的な学習では今年度も地域の力を借りて進めたい。

- 重点の③については、昨年と大きな変更はない。1. 全教育活動を通して、他の生徒と協力していける生徒を育てる。2. 地域とのかかわりを通して、地域への誇りを持ち、地域に貢献する心情を高める。3. 生徒会、学年生徒会の取り組みを通して、思いやりの心、共生の心を育む。4. 行事等の振り返りを通して、自分の成長と仲間の大切さを考えさせる。各学年ともに行事の振り返りを掲示物として廊下に掲示している。また、校内駅伝では、1年生の学級が応援メッセージを掲げ工夫をしていた。
- 重点4についても大きな変更はしていない。1. 校内、校外研修等を通して、自己の資質向上を図る。2. OJT を活性化させ、教師の専門性の向上、教育課題への組織的な対応に努める。3. 生徒に寄り添い、支え、寄り深く理解しながら、信頼の構築に努める。4. 学校における働き方改革を推進する。
- 教育活動について日課表を変更し実施している。目的は、生徒が帰宅後に余裕ある生活を送れること。生活リズムの一定化。一年を通した部活動時間の確保。月・水が6時間授業で部活動なし。火・木が5時間授業で部活動ありの16時45分下校。金曜日だけが6時間授業の部活動ありで18時下校としている。
- 不登校傾向にある生徒の教室以外の活動を、これまで「別室登校」などと呼んでいたが、三川中では、相談室を「Mitte」（ミッテ＝ドイツ語で「中心」）と表示し変更した。
- 体験活動による地域学習、キャリア教育の推進については、1年地域探究 2年わくわくワークと職場体験（町内職場、企業39事業所で受け入れてくれていることに感謝） 3年は町内幼保実習を計画している。
- ボランティア活動や地域活動への参加にかかわって、三川町中高ボランティアサークル「来夢来人」に自主的参加54名。町の活動に関わりたいと思っている生徒も多い。
- 持続可能なスポーツ・文化活動体制の確立に関しては、部活動の地域移行が進むなかで、スポーツ文化振興協議会と課題を共有しながら行っていきたい。
- 生徒会のスローガン＝「結笑」（けっしょう）～繋がりて 広げる笑顔を その先へ～と、生徒会「なかよし3原則と三川中のSNSのきまり」など、自主的取り組みとなっている。

◇ 学校運営方針への質問・意見 （各委員より）

- ・「相談室」を「Mitte」に変更したこと。表示してあるのか、また、利用しやすくするための経緯などを聞きたい。
- 「相談室」と「Mitte」の2段表示をしている。不登校生徒の登校状況等も職員室で分かるように配慮している。「Mitte」はドイツ語でセンター（中央）を示す語。「相談室」の表示はされていたが利用の状況は不登校生徒の居場所になっていた。他県等では「校内支援センター」等と呼んでいるところもあるが、職員との会話の中で保護者の方の気持ち等も考え、Mitteにした。「わたしを見て」とも通じる。全校生徒にあえて広めることはしない。教室に戻るためのステップの場所に考えている。複数の生徒が同時に利用することもある。
- ・フリースクール等のように登校したことを認める機関もできてきているが、その点ではどうなのか。
- 事例としてはあったが長続きはしなかった。続くようであれば、学校や委員会は登校扱いとしていくことになる。続かない理由の一因として生活リズムが安定していないこと等があげられるようだ。
- ・昨年度も話題となったSNSの利用による生活リズムの崩れは、持たせる親の責任につながる。
- ・行事などで、子どもたちからでてきたアイデアを生かして実施する方向にあるとしているがその汲み上げ方についてはどうか。
- 行事を創る楽しさ、やる楽しさ、準備する楽しさを話しはしている。先生方も生徒の主体性を生かして考えている。これから行われる体育祭や合唱祭でも、行事の大枠は提示し、生徒に委ねるところは委ねるように計画を提示するようになってきている。自己決定できる場の設定となっている。
- ・「来夢来人」の参加人数増加と活用について、大変よいことであり今後も活躍の場を考えたい。

◎ 学校運営方針については「承認」をいただきました。

◇ 熟議テーマ「地域（ふるさと）へ思いを寄せる子どもの育成」について

- ・学校と地域とのかかわりかたはどんなことがあるのか。

→各学年の総合的な学習活動。昨年は、家庭科における地域の方による支援。クラブ活動による地域指導の方とのかかわり等があげられる。

- ・地域の大人と一緒に、地域に貢献できることはよいことである。
- ・地域愛を育てるのにはよい年代ではあると思う。現状としてやることが一杯ある。どこまで地域と繋がれるかが課題となっているし多感な年代でもある。
- ・小学生までは地域密着。中学校に入ったら部活やクラブなどで、地域行事からの卒業という意識がある。
- ・小学校の時は、資源回収や地域の祭へ参加していた。中学校になると地域での役割から離れたりしている。その代償は大人になって現れてくることになる。失敗をさせない。させられないということが後々影響してくる。
- ・コロナ禍で笑顔がなかなか見られなかったことでコミュニケーションをとることも希薄な状況にある。地域の大人がもっと子どもに対しての働きかけが必要である。
- ・地域へ思いを寄せる子どもの育成のために大人のしかけは大切。以前、三川町をイメージした曲を作ったことや、子どもたちに三川町の写真募集などもしたことがあった。
- ・中学校部会としては、大人が子どもに仕組める地域へのかかわり方や地域とのかかわりで何を子どもに求めるか。学校の目標ともからめて考えていきたい。
- ・「笑顔で関われる地域のあり方の模索」などのテーマで今後話していきたい。

